

2023年度

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

事業報告書

I 2023 年度 事業報告書

2020 年 1 月に新型コロナウイルスが確認されて以降、これまで強いられてきた社会生活や経済活動の制限は徐々に緩和され、現在では、コロナ禍以前の日常を取り戻しておりますが、この間、脱脂粉乳の在庫量は、需要低迷と生乳生産拡大に伴い過去最大にまで積み上がりました。しかしながら、生産者の生産抑制をはじめ、国並びに酪農・乳業団体等による脱脂粉乳過剰在庫処理対策等の各種対策が奏功し、秋以降、従来の 10 万トンから 4 万トン台まで減少しつつあります。

一方、長引くロシアによるウクライナ侵攻や中東での紛争の影響等により、世界的な食糧・資材価格の上昇と急速な円安も相俟って飼料価格が高騰する傍ら、乳牛个体販売価格は下落する等、国内の酪農経営は依然として厳しい状況が続いております。また、本道では生産抑制下での生産者戸数の減少や今夏の記録的猛暑によって、生乳生産量は大幅な落ち込みを記録し、繁殖への影響も懸念される等、今後の展望に大きな不安を抱かざるを得ません。

このような中、本会においては、使命である本道酪農・乳業の健全な発展に資するため、乳牛検定並びに生乳検査に係る基本事業を継続するとともに、持続可能な酪農経営向上に向けた取り組みや乳質改善事業等に積極的に協力しました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合数 98 組合、農家数 3,487 戸(生乳出荷農家に対する普及率は 76.3%)、検定頭数約 34 万 4 千頭を対象に実施しました。検定業務は、検定組合の安定的な運営を支えるため、各種補助事業の推進を図ったほか、多様化する現場のニーズを収集し、加入促進と離脱防止に努めました。また、検定組合等が抱える各種課題に関与するとともに、検定業務の負担軽減を図るため、AZ 法をはじめとした検定簡易化の普及に努めました。電算業務は、マスター及び検定記録を迅速に処理し、各種情報の元となるデータを集積したほか、検定組合及び本会の業務効率化や検定情報利用者の利便性向上を目的に、牛群検定 Web システム改修等の開発に取り組みました。調査研究業務では、生涯生産性の改良促進や乳牛の健全性に関する基礎的な分析を行いました。

後代検定事業の推進業務については、関係団体との連携の下、調整交配の円滑な実施と娘牛保留等に努め、能力の高い国産種雄牛の作出に貢献しました。また、北海道乳牛改良委員会のほか、全国段階の会議体に参画し、乳牛改良の効率的な推進体制の構築に向けた提言を行うとともに、未經産 SNP 事業等に積極的に取り組み、技術の普及・定着を図りました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査、付帯検査及び申請検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。指定生乳生産者団体と乳業者と

の取引等に関わる合乳検査においては、392万トン(前年度対比96.9%)を対象に、成分、体細胞数、細菌数等の検査を実施しました。また、生乳検査 Web システムの運用を開始し利便性の向上並びに業務の効率化を推進しました。検査業務の基本となる検査精度は、試験所及び校正機関の能力に関する公定法分析についてのISO/IEC17025 認定機関として国際規格に基づき適正に管理しました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産並びに輸送段階の衛生管理、乳房炎防除、抗菌性物質残留の防止等に取り組みました。

調査試験業務については、今後の新しい情報として期待される種別体細胞数(DSCC)の調査試験に取り組んだほか、異常風味判定に係る官能評価員の養成を目的としたトレーニングを実施しました。

組織運営においては、本道酪農を取り巻く厳しい情勢変化により、本会の事業も向かい風を受ける一年となりましたが、滞ることなく事業活動を推進することができ、また、公益法人の財務規律である「収支相償」を達成することができました。加えて、本年は第6期業務運営に係る中期計画(以下、「第6期中期計画」という)の最終年度であり、効率的な組織体制構築の一環として、道央・道南圏を一元的に対応する道央事業所体制を整備する等、各部署と連携のうえ計画を遂行しました。

システム管理関連では、業務システム基盤の運用管理を実施し、動作環境、ネットワーク機器の監視を行うとともに、2024年度に予定する次期システムへの移行に向け、基幹システムのデータセンター間移設に係る準備を行いました。

このほか、本会が提供する加工情報の周知と活用促進への取り組みとして、機関誌並びにホームページによる情報の発信等、広報活動を行いました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

- 年度末における検定加入状況は、検定組合 98 組合、実施農家戸数 3,487 戸(44 戸加入、158 戸除籍と前年度より 114 戸減少)、検定牛頭数は 343,809 頭(前年度より 1,377 頭減少)となっている。

イ 牛群検定の推進

- 検定未加入農家を対象にした試行検定を推進したほか、検定手法の簡易化に係る検討、及び牛群検定 Web システムの活用方法の周知等を行い、検定離脱防止と加入促進に努めた。
- AZ 法は 36 戸(1.0%)、AT 法は 3,148 戸(90.3%)、自動検定(搾乳ロボット検定)は 383 戸(11.0%)となった。
- 大規模酪農検定システムは、15 機種に対応し、37 組合、98 戸(前年度より 21 戸減)が本システムを利用して検定を実施した。
- 「乳検 PAGs 検査オプション」を加入メリットとして周知し、898 戸(検査受託地区の 34.7%)の検定農家で、年間延べ 97,722 検体の利用実績となった。

ウ 年間検定成績

- 2023 年 1～12 月の集計では、平均実頭数 94.9 頭(前年より 1.7 頭増)、経産牛 1 頭当たり乳量 9,849kg(前年より 176kg 減)、1日当たり乳量 31.1kg(前年より 0.5kg 減)、分娩間隔 418 日(前年より 2 日短縮)となった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

- 検定事業を円滑に推進するため、各地区、組合代表者による協議会・会議等を実施した。
 - ① 検定員養成研修会
 - ・ 開催日 2023 年 8 月 31 日～9 月 1 日
 - ・ 開催地 本別町
 - ・ 出席者 32 名
 - ② 乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議
 - ・ 開催日 2023 年 9 月 27 日
 - ・ 開催地 札幌市
 - ・ 出席者 34 名

③ 地区別検定組合長協議会

- ・ 開催期間 2023年10月16日～10月31日
- ・ 開催地 10地区
- ・ 出席者 延べ267名

④ 地区別検定員研修会

- ・ 開催期間 2023年11月24日～12月1日
- ・ 開催地 9地区
- ・ 出席者 延べ321名

⑤ 検定員中央研修会(乳用牛群検定全国協議会との共催)

- ・ 開催期間 2024年2月28日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 受講者 210名

⑥ 検定情報活用研修会

- ・ 開催期間 2024年2月29日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 受講者 179名

○ 2023年度優秀検定員として、本会が推薦した次の11名が乳用牛群検定全国協議会から表彰された。

氏名	所属	氏名	所属
金子 政和	いわみざわ農協乳牛検定組合	及川 清志	道東あさひ農業協同組合
廣島 航太	浦河町乳牛検定組合	久保 祐一	中春別乳牛検定組合
藤内 誠	士幌町乳牛検定組合	大久保 陽一	訓子府町乳牛検定組合
亀山 大輔	芽室町乳牛検定組合	三浦 京子	北オホーツク農業協同組合
鳴川 昌侑	標茶町乳牛検定組合	会津 秀彦	東宗谷農業協同組合
小 椋 守	浜中町乳牛検定組合		

(2) 後代検定事業の推進業務

ア 後代検定娘牛に係るマスター登録・生産娘牛・受胎状況

○ (一社)北海道家畜人工授精師協会等と連携を図り事業を推進した。

後検年度	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスター登録頭数
2020 後検	33,376	16,074	6,007	4,807
2021 後検	31,787	15,741	5,820	4,715
2022 後検	24,440	12,068	(3,984)	(1,815)

(注)カッコ内は経過中の頭数

イ 2023 後検の調整交配

- 2023 後検では、ゲノミック評価情報等による予備選抜を経たヤングサイア 73 頭の調整交配が実施された。本会は、地区連合会との協議に基づき調整交配精液の配分案を作成した。
- 当初計画に追加希望 2,313 頭(16 組合)が上乘せされた。ヤングサイア頭数が、前期は 45 頭から 39 頭へ、後期は 45 頭から 34 頭へ変更され、計画頭数は 21,276 頭となった。

前 期 交配期間:2023 年 11 月~2024 年 2 月		後 期 交配期間:2024 年 4 月 ~2024 年 7 月		合 計	
ヤングサイア 頭 数	調整交配 計画頭数	ヤングサイア 頭 数	調整交配 計画頭数	ヤングサイア 頭 数	調整交配 計画頭数
39	11,286	34	9,990	73	21,276

ウ 後代検定事業の理解醸成に係る取り組み

- 北海道乳牛改良委員会に参画し、今後の改良の方向性を協議するとともに、組合長協議会等で取り組み内容を報告し、意見交換を行った。

(3) 補助事業及び受託事業

ア 経営体質強化に向けた牛群改良加速化事業

- ゲノミック評価技術を活用し、乳牛改良の加速化を図るため、実証に協力する農家を対象とした SNP 検査用のサンプル採取、能力検定、及び現地指導の費用として、本会を通じて事業に参加した 80 組合等に 3,658 万円が交付された。
- 本会は、事業推進に係る研修会開催及び事務費用等として、36 万 9 千円の交付を受けた。

イ 酪農緊急パワーアップ事業(乳用牛繁殖効率化推進事業)

- 性選別精液と調整交配用精液を活用した検定農家に対して、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて、乳用種雄子牛の出生頭数に応じた支援金 4,560 万円を交付した(検定農家 2,108 戸、対象延べ頭数 7,600 頭)。
- 本会は、事業推進に係る取りまとめ事務費等として、(一社)家畜改良事業団より 63 万 8 千円の交付を受けた。

ウ 酪農経営支援総合対策事業

(乳用牛改良増殖推進事業:飼養管理技術の向上対策)

- 検定組合等が実施した乳用牛の飼養管理技術に係る指導、及びそれらに必要な分析・検査等の取り組みに対して、(一社)家畜改良事業団から検定組合等に 1 億 769 万円が交付された。

- 本会は、(一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、事業推進に係る取りまとめ事務等を実施し、174万6千円の交付を受けた。

エ 酪農経営支援総合対策事業

(乳用牛改良増殖推進事業:遺伝的能力向上対策)

- (一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、検定組合等において後検娘牛とその同世代牛 19,636 頭の SNP 検査用サンプルの採取を実施し、(一社)家畜改良事業団から本会を通じ、検定組合等に 4,907 万円を交付した。
- 本会は、ゲノミック評価の利活用を図るための勉強会の開催経費及び取りまとめ事務経費として、(一社)家畜改良事業団より 99 万 8 千円の交付を受けた。

オ 乳用種雄牛後代検定受託事業

- 令和 5 年度乳用種雄牛後代検定事業の円滑な推進を目的に、(一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき実施された業務に対して、本会を通じて助成金等が交付された。
- 対象 5 件の産子事故調査として、検定組合等への調査謝金及び協力農家謝金として、合計 25 万円が交付された。
- 2022 後検受胎頭数 12,068 頭の調整交配促進費として、検定組合等に合計 603 万円が交付された。
- 2022 後検後期分 21,870 本、2023 後検前期分 17,556 本分の調整交配精液の保管配送費として、各 AI サブに対して合計 824 万円が交付された。

カ 乳用牛改良対策事業(牛群検定の試行)

- 牛群検定の普及拡大を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を 30 組合、56 戸で実施し、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合に助成金 386 万円を交付した。
- 本事業は、平成 11 年度から令和 5 年度までに合計 1,137 戸が実施し、牛群検定の普及定着に効果をあげている。

キ 持続的生産強化対策事業のうち畜産経営体生産性向上対策事業 (ICT 化等機械装置適合家畜生産推進事業)

- 本会は、事業推進に係るデータ収集管理及びデータ提供経費として、乳用牛群検定全国協議会より 300 万円の交付を受けた。

ク 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業

- 酪農学園大学との共同実施契約に基づき、本事業に係るデータ分析業務等を実施し、146万円の交付を受けた。

(4) 電子計算業務

ア マスター登録業務

- 検定農家及び検定牛(未經産含む)のマスター登録について、43戸、148,615頭の追加処理、及び109戸、149,086頭の除籍処理を行った。

イ 検定成績の計算処理業務

- 検定記録の年度処理について、663万6千件(月平均55万3千件、前年度から13万1千件減)の報告があり、これに対する修正を5万1千件(報告件数の0.7%)、照会を3万5千件(前年度から1千件減)処理した。
- 検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数で3.66日(前年度から0.09日延長)であった。
- 検定日速報及び乳成分速報をインターネット FAX で提供するサービスを、36組合、1,086戸の検定農家が利用した。
- 牛群検定 Web システムの帳票メール通知機能を利用して、検定農家302戸及び検定組合41組合が帳票を電子データで受信した(前年度から農家宛94戸増、組合宛8組合増)。

ウ 牛群検定システム、基幹システム等の開発・補完・運用

- 検定組合及び本会の業務効率化、牛群検定 Web システム等利用者の利便性向上のため、各種システムの開発を行った。

2023年度 開発業務

対 象	主な改修内容
牛群検定 Web システム	・利便性向上のためのメイン画面、通知機能等の改修 ・Web 公開、メール通知による提供情報拡充
牛群検定 Web システム DL	・利便性及び視認性向上のためのメイン画面等の改修 ・遺伝評価情報の掲載
検定記録送受信ソフト	・自動/大規模検定システムの各種画面の改善 ・AZ 法処理機能の利便性拡張
検定情報収集端末(タブレット)	・データ破損時等に使用する復元機能の作成 ・Bluetooth を使用したタイマー取得機能の改修
内部ツール及び帳票	・帳票オプション見直しのための各システム改修 ・速報 FAX エラー時対応の自動化処理

- 2021年度より運用を開始した牛群検定 Web システムによる検定記録の照会・回答機能について、全98組合が本機能に移行した。

- 照会業務の効率化を目的とした個体識別情報による経産牛の自動除籍について、試験実施を終了し正式運用を開始した。

エ 牛群検定データを用いた乳牛改良等の調査研究と情報活用

- 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業に参画し、乳中ケトン体(BHB)並びに脂肪酸組成形質と生産形質、繁殖形質、生涯生産性関連形質との表型的・遺伝的関連を調査しその結果を学会で発表した。
- 畜産経営体生産性向上対策事業(ICT 化等機械装置適合家畜生産推進事業)におけるロボット適合指数の開発に協力するため、自動検定等で収集したデータを乳用牛群検定全国協議会に提供した。また、搾乳ロボット農家への新たな情報提供を検討するため本会でも同データの調査分析に着手した。
- 研究機関と共同研究を実施し、学会での研究発表 5 題、共著論文 1 題に協力した。また、研究機関等からの要請に応じて牛群検定データの提供を行い、生涯生産性等の改善に必要となる研究の推進に協力した。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

- 指定生乳生産者団体及び乳業者の申請により、成分・体細胞数検査 17 万 1 千検体及び細菌数検査 7 万 1 千検体の合乳検査を実施した。
- 検査対象乳量は、392 万トン(前年度対比 96.9%)であった。
- 脂肪率及び無脂乳固形分率は、それぞれ 4.051%(前年度 4.060%)、8.816%(同 8.812%)であり、脂肪率が 0.009 ポイント低下し、無脂乳固形分率が 0.004 ポイント上昇した。
- 衛生的乳質においては、細菌数 1 万/ml 以下の比率は 96.9%、体細胞数 30 万/ml 以下の比率は、97.7%と、引き続き高水準を維持した。
- 体細胞数 20 万/ml 以下の比率は、1.9 ポイント低下し 74.5%(前年度 76.4%)であった。

イ 個乳検査の実施

- 検体数は、成分・体細胞数検査並びに細菌数検査ともに、13 万 5 千検体であった。
- 検査対象乳量は、成分・体細胞数検査並びに細菌数検査ともに 260 万 4 千トン(前年度対比 97.1%)であった。

- 個乳検査を受託している農協・団体数は79団体、酪農家戸数は、3,412戸であった。

ウ 個体乳検査の実施

- 乳牛検定組合等からの申請により、成分・体細胞数検査について225万5千検体(前年度対比98.5%)の検査を実施した。
- 個体乳検査を実施した組合数は76組合、農家数は2,589戸であった。

エ 付帯検査及び検査資材の提供

- 生乳生産者団体等及び乳業者からの申請により実施した付帯検査の総件数は、55万7千検体、検査用資材の提供総数量は11万8千枚であった。
- 付帯検査で主要な割合を占めるバルク乳並びに個体乳の体細胞数検査は、47万4千検体(前年度対比99.1%)であった。
- 乳房炎起因菌同定検査は1万2千検体(前年度対比96.2%)であった。

オ 申請検査の実施

- 生乳生産者団体及び検定組合からの申請により実施したPAGs検査の総検体数は、14万3千検体(前年度対比99.7%)であった。
- 生乳生産者団体からの申請により実施した出荷毎個乳検査の総検体数は、31万検体(前年度対比96.3%)であった。
- 生乳生産者団体及び乳業者からの申請により実施した生乳分析装置の校正に係る検査は、12団体、延べ1,756検体であった。
- 地区連合会からの申請により実施したバルク乳中マイコプラズマ菌(属)検査の総検体数は、3,435検体(前年度対比104.0%)であった。

カ 生乳検査精度管理の充実強化

- (公財)日本乳業技術協会が認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理の充実を図り、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公平かつ正確な検査の実施に努めた。
- 乳成分測定機の精度管理を目的として実施している公定法分析について、ISO/IEC17025認定機関として、国際規格に基づき適正に実施した。
- ISO/IEC17025については、認定3期目となる更新審査を受けた。

キ 外部精度管理への参加及び国内機関との連携

- (公財)日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査及びICARが実施する体細胞数測定機の国際技能試験に参加し、乳成分及び体細胞数測定機の精度確認を実施した。

- 乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、(公財)日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な技能試験提供機関(FAPAS)が実施する技能試験に参加した。
- 微生物試験に関しては、栄研化学(株)が実施する外部精度管理に参加した。
- 外部精度管理の結果については、いずれも良好な評価を得た。

ク 生乳検査システムの開発・更改・運用

- 2022年度に開発した生乳検査 Web システムの運用開始により、検査結果報告等の迅速化と利便性の向上並びにペーパーレス化を図った。また、システム更改により電算処理に係るチェック作業を統一することで業務の効率化を図った。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

- 乳質改善に係る技術普及の面では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会、ミルカー管理技術指導者講習会の企画立案への協力並びに講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及を図った。
- 地区乳改が主体となり個乳生菌数削減対策を目的に実施した生菌数検査は、延べ1万4千検体を実施した。

イ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

- 指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年4回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機及び細菌数測定法のクロスチェックを実施した。
- 乳業者が所有する乳成分測定機についても年6回、クロスチェックを実施した。
- これらのクロスチェックについては、いずれも基準内であり、良好に管理及び運用されていることを確認した。

ウ 生乳取扱者技術認定講習会

- 生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査の技術水準の向上を図ることを目的として、生乳取扱者や畜産関係技術者等を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。
- 効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者に、北海道知事から認定証が交付された。

- ・ 開催期間 2023年10月2日～10月6日(5日間)
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 受講者数 54名(生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者)
- ・ 知事認定者 54名
- ・ 運営委員会の開催 2回

エ 生乳の風味向上への取り組み

- 本道生乳の一層の風味向上に資するため、異常風味発生時の確認検査並びに現地調査に協力するとともに発生事例の蓄積を行った。
- 関係機関による異常風味発生防止を目的とした検討会や、大学が行う研究事業等に協力した。
- 関係機関並びに集荷担当者を対象とした講習会等では、訓練用サンプルを用いた模擬官能検査を実施し、官能検査レベル向上を図った。

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

- 指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報(出荷乳量、乳温)を提供することで協力した。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

- 指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記帳記録推進に協力した。
- 指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として抗生物質カナマイシン 1,929 検体について残留確認検査を実施し、全て陰性を確認した。
- (一社)J ミルクが全国的に実施したアフラトキシン検査のうち、北海道分の3検体について検査協力を行い、全て陰性を確認した。

(4) 調査試験業務

ア 種別体細胞数(DSCC)に関する調査試験

- 新型の体細胞数測定機に搭載される種別体細胞数情報について、諸外国の情報を収集するとともに、活用方法に係る調査試験を実施した。

イ 官能評価員の養成

- 生乳の格付け検査として重要な位置づけである風味検査について、分析型パネリストの養成を目的として、全事業所の検査員を対象に年間 9 回以上のトレーニングを実施した。
- 本会基準を満たした 15 名の検査員を分析型パネリストに認定した。

(5) 道産食品独自認証制度(ナチュラルチーズ)認証の実施

- 道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として認証実務の取り進めを行った。なお、2023 年度における対象品目は前年度同様、1 事業者、2 品目であった。
 - ・ 継続及び新規認証受付 2023 年 5 月
 - ・ 書類審査 2024 年 2 月 16 日
 - ・ 現地審査 2024 年 2 月 19 日
 - ・ 専門家審査 2024 年 2 月 19 日

3. 総務部関係

(1) 組織運営関係

ア 中期計画の推進及び次期計画の策定

- 第 6 期中期計画の最終年度にあたる本年は、各部署と連携のうえ計画を推進した。また、第 6 期中期計画の基本骨子・推進目標を継続し、次期計画となる第 7 期中期計画(2024 年度～2026 年度)の策定を行った。

イ 財務規律及び制度改正への対応

- 公益法人の財務規律である「収支相償」の遵守に努めたほか、税制改正に伴い、適格請求書等保存方式(インボイス制度)並びに電子帳簿保存法に基づく対応を行った。

ウ 業務効率化の推進

- 第 6 期中期計画に沿った効率的な組織体制に係る事業所機能見直しの一環として、道央・道南圏を一元的に対応する道央事業所体制を整備した。
- 同計画に基づく検査体制の効率化を実現するため、処理能力等、効果的な機器更新を図り、測定機及び人員の削減を図った。

(2) 基本事項への対応

- 理事の職務執行は、法令及び定款、理事会運営規程、事務局規程等に基づき行なわれたほか、コンプライアンス規程、リスク管理規程に基づき適切な対処と予防策の構築に向けた対応を行った。
- 公益法人としてのコンプライアンスの徹底を図るため、内部監査(年4回)を計画的に実施した。
- 組織運営の基盤となる人材の育成について、外部研修団体のセミナー・講習会を受講させ、職員への教育研修に取り組んだ。また、eラーニングを活用し、個人情報保護や情報管理に関する法令遵守のほか、ハラスメント防止に係る職員への意識向上を図った。

(3) システム管理・運用業務

- 基幹システム及びネットワークの動作監視、運用管理を実施し、安定的な業務システム稼働に係る対応を行った。
- 2024年度に予定する次期システムへの移行に向け、基幹システムのデータセンター間移設に係るスケジュールや作業項目の精査等、具体的な移設計画の策定に加え、事前に可能な管理サーバの移行やデータベースサーバの構築を各部署と連携し実施した。

(4) 広報活動

- 機関誌「乳s」を年2回発行し、道内の全生乳生産者及び関係機関・団体に向けて、検定情報の活用法や乳質改善に関する技術情報等を発信した。
- ホームページを通じて、牛群検定・後代検定事業並びに生乳検査事業に係る各種成績・統計情報を公開し、必要の都度、随時情報更新した。

第2 主要な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
2023. 5. 29～30	2022年度 決算会計監査(札幌市)
31	2022年度 決算監査(札幌市)
6. 8	第1回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会(札幌市)
9	第1回 理事会(札幌市)
16	役員選考委員会(札幌市)
29	第49回 通常総会(札幌市)
〃	第2回 理事会(札幌市)
7. 4～ 5	第1回 内部監査(札幌市)
8. 8～ 9	第2回 内部監査(札幌市)
30～ 9. 1	検定員養成研修会(本別町)
9. 5～ 6	第3回 内部監査(札幌市)
27	乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議(札幌市)
10. 2～ 6	生乳取扱者技術認定講習会(札幌市)
16～31	地区別検定組合長協議会(全道10会場)
11. 1・ 13	2023年度 上半期会計監査(札幌市)
24	2023年度 上半期監事監査(札幌市)
24～12. 1	地区別検定員研修会(全道9会場)
12. 6	第2回 生乳取扱者技術認定講習会運営委員会(札幌市)
11	第3回 理事会(札幌市)
2024. 2. 19～20	第4回 内部監査(札幌市)
2. 28	検定員中央研修会(札幌市)
29	検定情報活用研修会(札幌市)
3. 9	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査(興部町)
12	第4回 理事会(札幌市)
〃	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査(札幌市)

第3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第49回通常総会 2023.6.29	41	<p>I.報告事項</p> <p>1. 2022年度事業報告書について</p> <p>II. 付議事項</p> <p>1. 2022年度決算報告書(貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録)について</p> <p>2. 2023年度会費の賦課並びに徴収について</p> <p>3. 2023年度役員報酬について</p> <p>4. 任期満了に伴う役員選任について</p> <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>

第4 理事会

年 月 日	主 なる 議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 2023. 6. 9	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度事業報告書、決算報告書(貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録)の承認について 2. 検定事業に係る補助事業等の実施について 3. 役員損害賠償責任保険の更新について 4. 第49回通常総会の開催について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 2 回 2023. 6.29	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役付理事の互選について <p style="text-align: right;">互選により議決</p>
第 3 回 2023.12.11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検定事業に係る補助事業等の実施について 2. 2023年度収支予算(損益ベース)の補正について 3. 第7期中期計画について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 4 回 2024. 3.12	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年度収支予算(損益ベース)の補正について 2. 2023年度資産取得資金積立額について 3. 第7期業務運営に係る中期計画について 4. 事業所体制に係る検討について 5. 2024年度事業計画及び収支予算(損益ベース)について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>

第5 組 織

1 会 員

区 分	2022年度末現在	2023年度加入	2023年度脱退	2023年度末現在
一般会員	34	0	0	34
会費会員	3	0	0	3
特別会員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿) (順不同)

一般会員

会 員 名	会 員 名
北海道 一般社団法人ジェネティクス北海道 一般社団法人北海道酪農協会 北海道ホルスタイン農業協同組合 公益財団法人北海道農業公社 サツラク農業協同組合 株式会社 J H B S ホクレン農業協同組合連合会 上川生産農業協同組合連合会 釧路農業協同組合連合会 根室生産農業協同組合連合会 十勝農業協同組合連合会 宗谷生産農業協同組合連合会 日高生産農業協同組合連合会 胆振生産農業協同組合連合会 石狩乳牛検定協会 空知乳牛検定組合連合会	上川乳牛検定組合連合会 後志地区乳牛検定組合連合会 道南地区乳牛検定組合連合会 胆振乳牛検定組合連合会 日高乳牛検定組合連合会 十勝乳牛検定組合連合会 釧路地区乳牛検定組合連合会 根室乳牛検定組合連合会 網走管内乳牛検定組合連合会 宗谷乳牛検定組合連合会 留萌管内乳牛検定組合連合会 一般社団法人北海道酪農畜産協会 雪印メグミルク株式会社 株式会社明治 森永乳業株式会社 よつ葉乳業株式会社 北海道日高乳業株式会社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北海道農業協同組合中央会 北海道乳質改善協議会	北海道農業共済組合

特別会員

会 員 名	会 員 名
北海道乳業株式会社 北海道チクレン農業協同組合連合会 くみあい乳業株式会社 株式会社北海道酪農公社	タカナシ乳業株式会社 北海道保証牛乳株式会社 ラクレン農業協同組合連合会

2. 役員

(単位:名)

区 分		2022年度末現在	2023年度		2023年度末現在	摘 要
			増 加	減 少		
理 事	会 長	1	1	1	1	
	副 会 長	2	2	2	2	
	専 務 理 事	1	1	1	1	(常勤)
	理 事	8	8	8	8	
	計	12	12	12	12	
監 事	代 表 監 事	1	1	1	1	
	監 事	2	2	2	2	
	計	3	3	3	3	
合 計		15	15	15	15	

3. 職員

(単位:名)

区 分	2022年度末現在	2023年度採用	2023年度退職	2023年度末現在	摘 要
総 合 職	39	2	4	37	
地域総合職	19	0	1	18	
嘱 託	7	2	0	9	
合 計	65	4	5	64	

備考：臨時職員・パート職員 25名（年度末現在）

(参考)

牛群検定事業実施状況の推移

年 度	組合数	マスタ登録				加入 戸数(戸)	除籍 戸数(戸)	全道生乳出荷 戸数(戸) (c)	農林水産統計 頭数(頭) (d)
		戸数(戸) (a)	普及率(%) (a)/(c)	頭数(頭) (b)	普及率(%) (b)/(d)				
2014	99	4,477	73.4	347,909	75.7	47	169	6,098	459,700
2015	98	4,383	74.0	347,363	73.8	53	182	5,920	470,900
2016	98	4,297	74.6	345,857	75.3	46	125	5,759	459,400
2017	98	4,188	74.9	346,987	75.2	44	153	5,589	461,500
2018	98	4,083	75.3	345,307	74.3	42	147	5,423	464,500
2019	98	3,982	75.6	347,321	75.5	41	142	5,264	459,800
2020	98	3,898	75.3	352,306	74.9	39	123	5,176	470,200
2021	98	3,788	75.6	354,974	73.8	42	152	5,009	480,900
2022	98	3,601	75.2	345,186	73.4	29	216	4,787	470,000
2023	98	3,487	76.3	343,809	-	44	158	4,569	-

年 (1~12月)	1頭1日当 乳量 (kg)	年間乳量 1頭当 (kg)	成分率			体細胞数 (万/ml)	分娩 間隔 (日)	空胎 日数 (日)	1頭1日当 濃厚飼料給与 (kg)
			脂肪率 (%)	乳タンパク質率 (%)	無脂乳固形分率 (%)				
2014	28.8	9,088	4.02	3.32	8.81	21.3	430	152	10.8
2015	29.4	9,306	3.96	3.32	8.80	21.1	428	151	10.8
2016	29.9	9,502	3.94	3.34	8.79	21.3	426	151	10.9
2017	29.8	9,439	3.95	3.35	8.81	20.8	426	153	10.9
2018	30.4	9,626	3.95	3.34	8.80	20.8	426	151	11.0
2019	30.8	9,734	3.96	3.34	8.81	20.3	425	150	10.8
2020	31.0	9,878	3.96	3.35	8.82	20.3	425	149	10.8
2021	31.2	9,933	3.98	3.37	8.84	20.0	422	147	10.8
2022	31.6	10,025	4.03	3.39	8.86	19.2	420	143	10.9
2023	31.1	9,849	4.02	3.38	8.84	19.7	418	145	10.9

生乳検査成績の推移(合乳)

年 度	成分率			細菌数 1万/ml以下 比率 (%)	体細胞数	
	脂肪率 (%)	無脂乳固形分率 (%)	全固形分率 (%)		20万/ml以下 比率 (%)	30万/ml以下 比率 (%)
2014	3.927	8.780	12.706	98.6	68.9	98.7
2015	3.941	8.768	12.709	98.8	69.2	98.8
2016	3.958	8.769	12.728	98.6	68.6	98.5
2017	3.958	8.786	12.744	98.5	70.5	98.6
2018	3.964	8.769	12.733	98.4	72.5	98.4
2019	3.967	8.776	12.743	98.2	71.4	98.4
2020	3.976	8.783	12.759	98.0	73.3	98.6
2021	4.010	8.815	12.825	97.6	75.3	98.7
2022	4.060	8.812	12.872	97.2	76.4	98.5
2023	4.051	8.816	12.867	96.9	74.5	97.7

2023年度 生乳検査実施状況

項 目		検 体 数	対前年比	備 考	
				検査対象乳量	前年対比
合乳	成分・体細胞数検査	171,170 件	98.5 %	3,924,638,963.4 Kg	96.9 %
	細菌数検査	71,466 件	98.2 %		
個乳	成分・体細胞数検査	134,559 件	95.3 %	2,604,474,446.4 Kg	97.1 %
	細菌数検査	134,559 件	95.3 %		
個体乳検査		2,254,916 件	98.5 %		
付帯検査		557,143 件	- %		
検査用資材の提供		118,004 件	- %		